

『早稲田政治経済学雑誌』日本語論文執筆規程

2022年4月1日改訂

『早稲田政治経済学雑誌』への投稿原稿を執筆する際には、以下の様式にしたがうこと。
本日本語論文執筆規程に記載の内容を含め、所定の様式から著しく逸脱した投稿は受理されない可能性がある。十分に留意すること。

- a) 日本語を使用し、原則として電子ファイル（PDF形式）で作成し、A4用紙に横書きで記述すること。論文本体とは別にカバーページのみファイルを作成し、そこに、論文タイトル、投稿者の氏名および所属、投稿資格、要旨（日本語400字程度*）、メールアドレス、謝辞等を記入のこと。カバーページの体裁は投稿者が任意に設定のこと。
※ 論文の掲載決定後、英文タイトル、英文要旨（英語200ワード程度）を提出すること。
ただし、必ず事前にネイティブチェックを受けてから提出すること。
- b) 論文の本体は、論文タイトル、本文、付録、注、参考文献の順に記述すること。本体は1頁あたり40字×30行とする。また、図表、数式、注や参考文献等を含めた総ページ数は、原則として30頁以内とする。
- c) 論文の本文には、氏名や所属等の投稿者が特定可能な記述をしないこと。
- d) 付録が複数ある場合には、本文中にA1、A2のように付番して指示したうえで、本文の後、注の前に集めて提示すること。
- e) 日本語の読点は「、」（全角カンマ）を、句点は「。」を使用すること。ただし、外国語の参考文献に言及するなど、外国語の単語とともにカンマを用いる場合は、半角カンマでよい。
- f) 注は本文中に上添の数字で順に付番の上で、付録の後、参考文献の前に一括して提示すること。

[本文中]

.....通常の議論では、直接投資は二つの概念からなるといわれている⁽²⁾。すなわち.....

[注のページ]

(1).....

(2)これに対していくつかの反論があることは承知しているが、しかし.....

(3).....

- g) 参考文献は本体の巻末に集め、日本語参考文献（五十音順）および外国語文献（アルファベット順）に通し番号を付けること。

[参考文献一覧]

- [1] 斎藤眞, 『アメリカ革命史研究 自由と統合』, 東京大学出版会, 1992 年。
[2] 山下修, 『不確実性下の経済学』, 東洋経済新報社, 1989 年。
[3] Dahl, Robert A., *Polyarchy: Participation and Opposition*, Yale University Press, 1971.
[4] Sakai, Makoto, “International Duopoly with Overseas Production and Strategic Trade Policies,” *Journal of Economics*, Vol. 73, No. 3, Nov. 2001, pp. 227-246.

- h) 本文中で引用を行う場合は、以下の A か B のいずれかの形式から選択し、論文全体で一貫してその形式を用いること。

A: 注を用いて引用箇所を示す形式*

[本文中]

ダールによると、この概念は参加と競争から構成される⁽¹⁾。……⁽²⁾。……⁽³⁾。

[注のページ]

- (1) Robert A. Dahl, *Polyarchy: Participation and Opposition*, Yale University Press, 1971, pp. 1-9.
(2) Ibid., p.12.
(3) 斎藤眞, 『アメリカ革命史研究 自由と統合』, 東京大学出版会, 1992 年, 100-102 頁。

* この形式を選択した場合、一度引用した文献から再度の引用を行う際には、著者の姓、出版年、頁数のみを記す形で略記しても構わない。

B: 本文中にかっこ書きで引用箇所を示す形式**

[本文中]

同じことは、山下^[2]および Sakai^[4]によっても指摘されている（山下 1989: 12-15; Sakai 2001: 230）。

** この形式を選択した場合、引用箇所には、参考文献一覧に対応した通し番号を上添の数字で付すこと。ただし、引用元文献の論旨全体に言及する場合は、頁数の記載は省略可とする。

以 上